

SP4-1

心筋細胞死をめぐる諸問題

岐阜大学循環器内科 竹村 元三

アポトーシスとオートファジーは形態学的に定義される細胞死の様式である。アポトーシスによる心筋細胞死が虚血再灌流や心筋梗塞時の急性虚血性心筋細胞死あるいは心不全の成因あるいは増悪に関与している可能性が示唆されている。実際心筋細胞のアポトーシスを実験レベルで誘導することができる。しかしながら実際の心疾患においては虚血心あるいは心不全のいかなる段階においても、DNA断片化やアポトーシス関連因子の発現などアポトーシスの間接証明はあるが、心筋細胞アポトーシスの直接証明すなわち形態学的証拠は未だ示されていない。一方、不全心筋においてオートファジー心筋細胞は確かに見られるが、その病態生理学的意義は未だ明らかではない。すなわち、それがプログラム細胞死を意味するのか、細胞生存のための代償機構なのか、あるいはオートファジーの最終ステップの機能不全のため単に自己貪食空胞が細胞内に蓄積しているだけなのか判別がつかない。本シンポジウムでは心疾患における心筋細胞のアポトーシスならびにオートファジーを再評価し、未解決の問題を整理する。特に虚血性心疾患あるいは各種心疾患の終末像である心不全の治療法として、心筋細胞に対する抗細胞死・抗変性治療は有効な手段になると考えられるため、将来これらの問題を解決することは有意義であると思われる。



竹村 元三 (たけむら げんぞう)

昭和 51 年 3 月	和歌山県立桐蔭高等学校卒業
昭和 58 年 3 月	京都大学医学部卒業
昭和 58 年～59 年 5 月	京都大学医学部附属病院内科研修医
昭和 59 年～61 年 3 月	和歌山赤十字病院内科研修医～医員
昭和 61 年～平成 2 年 3 月	京都大学医学部大学院博士課程 (内科系専攻)
平成 2 年 4 月～4 年 9 月	米国オハイオ州シンシナティ大学研究員
平成 4 年 10 月～7 年 3 月	兵庫県立尼崎病院内科医長
平成 7 年 4 月～9 月	岐阜大学医学部附属病院第 2 内科・医員
平成 7 年 10 月～11 年 4 月	同上・助手
平成 11 年 5 月～14 年 3 月	同上・講師
平成 14 年 4 月	大学院改組に伴い： 岐阜大学大学院医学系研究科再生医科学 専攻再生応用循環病態学・講師 兼 岐阜大学医学部附属病院循環器内科・講師
平成 19 年 6 月～23 年 3 月	同上、准教授
平成 23 年 4 月～現在	大学院名称変更に伴い： 岐阜大学大学院医学系研究科再生医科学 専攻再生応用循環呼吸制御学・准教授 兼 岐阜大学医学部附属病院循環器内科・准教授